



1. 子ども室もクローゼットの中まで木を贅沢に使用。壁紙は自然素材のクロス
2. 多目的に使える 2 階のフリースペース。奥は子ども室、反対側は造作の書庫
3. 木をふんだんに使ったキッチン。もちろん収納棚も杉の造作で
4. 玄関は将来を考えてバリアフリー。右手には納戸を兼ねたシューズクローク
5. リビングから小上がりになった和室。下部分は収納になっている



(写真上) 屋根勾配を活かした開放感ある吹き抜けは、木目の美しい梁が映える  
(写真下) 庭と一体感のあるウッドデッキ。家庭菜園やガーデニングが楽しめる



梁を見せた吹き抜けと無垢の床、白い漆喰壁とのバランスが良い

## ゆったりとした時間を楽しむ 自然を取り込んだおおらかな木の家



「最初は洒落なデザインに惹かれていたんですが、木の温かみを感じた瞬間、木の家に住みたいと思うようになりました」と話すAさんご夫妻が選んだのは、熊本県産の杉材。床板に使うと、柔らかくて足触りがとても良く、夏はサラッとした感触が楽しめる。冬は温かみがある。しかも、地元で育った木材を使えば、木にかかるストレスも少なく、季節に合わせて室内の環境を整えてくれるので、健康的な家となります。

「熊本県は杉の産地。身近な所にこんな素晴らしい建築材料があるのなら、使わない手はないですね」とご主人。また、木の香り成分には鎮静作用のある「フィトンチッド」が含まれ、木目は視覚的に癒しの効果がある。1/1ゆらぎ。を持つ。今では我が家が最高のリラックスペース。自宅で過ごすことが、一番の楽しみになっています。

Aさん邸の構造材は、全て熊本県産の杉を使用。内部にも杉を多用した設計で、木の優しさを存分に味わえる。そして、壁は無彩色な漆喰を入れることで、見た目のバランスにも配慮。木の性質を知り尽くし、伝統工法による木を活かした家づくりにもこだわって、信頼できる職人と巡り会えたのも幸運だった。また、木造では大きな開口部や、

すべての表情が異なる  
自然の木材を活かす匠の技



吹き抜けなどとは難しいと思われがちだが、本来木造は設計の自由度が高く、適正な材を使えば強度も保てる。実際、Aさん邸は2階の天井高である吹き抜けに、和室も取り込んだ広いLDKが、好例を示している。

この家で、冬を過ごしたご夫婦に感想を伺うと、結露がない、洗濯物を室内に干すと良く乾いておいがしないなど良いことずくめのよう。『髪がセットしやすくなったのも、木が湿気を吸ってくれているお陰かも』と奥様は笑顔を見せる。

木の家は、経年とともに、趣のある住まいになる。それとともに住まう側の愛着も増していくだろう。『ずっと大切に住み継いでいきたいですね』。そんな魅力あふれる、木造りのAさん邸だ。



Aさん邸  
熊本市

保湿効果が高く、調湿能力に優れている杉材をふんだんに使うことで、家中で森林浴をしているような快適でリラックスできる住空間を実現。杉の構造材は木目がとても美しいので、壁で隠してしまわず、大工の技術と経験を活かした、構造をより美しく見せる家に



1. 和室の引き戸を閉めれば個室に。宴会時には全て外して押入れに収納できる
2. トイレの中も木を惜しみなく使用。棚や収納、照明器具も大工の造作
3. 玄関に入った途端、木の爽やかな香りに癒される。壁のほとんどは土壁
4. 木製建具の玄関引き戸は人を招き入れるにふさわしい、重厚な佇まい



天井を張りす吹き抜けとした部分に先人の知恵で  
ある通風のための無双窓を設置



子ども室の下部は自転車もしまえる大型収納。  
家中と庭の2方向から入れるのが便利



木の温もりに包まれてぐっすり眠れる主寝室は書  
斎とウォークインクローゼットも完備



Fさん邸  
熊本市

2階建てに見えるが実は平屋。漆喰の塗り壁と赤味のある  
杉板の下見張りが美しい



美しくて力強い構造材を見せたLDKは開放的な空間に

## 柔らかな温もりに包まれた 自然と心がなごむ「ホッ」とする家



暮らしの細部まで丁寧に設計し  
高度な職人技で建てる

「子どもの頃に住んでいた土壁と木の家が理想でした」と言うFさん。玄関に入ると、木の心地よい香りに思わず深呼吸したくなる。中に入ると熊本県産の杉を中心に、天井から床、柱など無垢材を贅沢に使った清々しい空間が広がり、ここでも再び深呼吸してしまう。

リビングはダイニングや和室も取り込んだ開放的な造りで、子ども達の良い遊び場。吹き抜けからの柔らかな光が差し込む床に腰をおろすと、自然の温もりを全身に感じられる空間だ。がっつりとした重厚な木組みも、不思議と圧迫感を感じない。「子ども達もすぐに床でごろごろして、やっぱり気持ち良いんですよ。うね。聞けば、鼻炎の症状があり、冬の乾燥肌に悩まされていた子ども達も、この家に住み始めてからは症状が落ち着き、風邪もそうひかなくなったとか。Fさん邸の構造材は熊本県産の杉を使用している。玄関の檜材は製材所に勤める義父からの提供。リビングの床材と梁、柱は県産木材提供事業で支給されたものだ。そして、その木の性質を見極め、金物に頼らない昔ながらの方法でこの家をつくり上げたのが、「土に還るもの」と伝統的構法で家を創る」をコンセプトにした職人集団だ。

例えば、日当たりや風向きに

よって開口部の位置や屋根の掛け方、軒の出などは大きく変わる。家の中は引き戸と無双窓を中心に、年間を通じて快適な通風を実現。同じ杉でも節や色合いで使い分けている。建具や棚、照明器具も大工が手づくりすることで、後々まで手入れに責任が持てるというも納得だ。

一方、建て方は昔ながらの木組みだが、現代の暮らしにも合う柔軟な設計が出来るのも、包容力のある木の家の特徴。Fさん邸もフレキシブルな空間使いにスキップフロア、大容量の床下収納を設けた。「木の性質を見極め、きちんと使ってやれば百年も生き抜くという大工さんの話に、私達もこの家を大事に住み継いでいきたいと思えました」と、幸せそうなFさんだ。



子ども室は可変性のある2間続きのロフト付き